



パレスチナ問題とどう向き合うのか？

ガザと日本の私たち

日時 4月18日(土) 13:30~15:45

会場 鹿児島大学 稲盛会館
鹿児島市郡元1丁目21-40 <地図参照>
駐車場はありません。公共交通もしくは周辺の
パーキングをご利用ください。

入場料 無料



パレスチナ問題とは？こう問われた時に何を思い浮かべるでしょうか。宗教や民族の問題でしょうか。この地で生きる子どもたちには遊ぶ場所がありません。道をふさがれて病院での治療を受けられない、突然家を壊される、理由もなく逮捕される。こうしたことは、ここ数年だけの話ではありません。ガザおよびヨルダン川西岸は、いつからこうした状況におかれているのでしょうか。日本で暮らす私たちも、目を向ける時です。

《プログラム》

はじめに

ガザ・パレスチナ問題が世界と日本へもたらす影響
礼満ハフィーズ（鹿児島大学理学部）

講演 ガザと日本の私たち
～パレスチナ問題とどう向き合うのか？～
高橋真樹（ノンフィクションライター）

たかはしまさき / 放送大学非常勤講師。平和協同ジャーナリスト基金奨励賞受賞。世界70カ国以上を訪れ、持続可能な社会を目指して、取材・執筆活動を行う。1997年より、たびたびパレスチナを訪問。著書に『ぼくの村は壁で囲まれた：パレスチナに生きる子どもたち』（現代書館）、『もしも君の町がガザだったら』（ポプラ社）ほか多数。